

Title	目次・あとがき
Author(s)	
Citation	アジア・キリスト教・多元性 = ASIA CHRISTIANITY DIVERSITY (2020), 19(1)
Issue Date	2020-10
URL	http://hdl.handle.net/2433/260975
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

アジア・キリスト教・多元性

第19号 第1集

論文

聖公会の満州伝道——初期（1891-1919）の様相を中心に——
..... 松山健作（1）

「失敗」した台湾での宣教とイエスの人格からの乖離
——あるスコットランド人宣教師の内省（1865-1938年）——
..... 三野和恵（27）

書評

東アジア・キリスト教研究における思想と歴史のコンシリエンス
——芦名定道著「キリスト教研究叢書」全3巻の紹介——
..... 洪伊杓（39）

あとがき 芦名定道（50）

2020年10月

「アジア・キリスト教・多元性」研究会

ASIA CHRISTIANITY DIVERSITY

XIX
volume 1

CONTENTS

Articles

The State of Anglican Missions to Manchuria in the Early Years (1891-1919)
..... MATSUYAMA Kensaku (01)

A Scottish Missionary's Reflection upon the "Failed" Mission in Taiwan and the Detachment
from the Person of Jesus, 1865-1938 MINO Kazue (27)

Book review

The Consilience of Thought and History Within the Study of East Asian Christianity
: An Introduction to Sadamichi Ashina's Trilogy Featured in *Series in Christian Studies*
..... HONG YiPyo (39)

Postscript ASHINA Sadamichi (50)

October, 2020

Study Group for Christianity and Diversity in Asia
Kyoto Japan

ISSN 2432-1796

◆『アジア・キリスト教・多元性』第19号第1集をお届けいたします。

本研究雑誌は、「アジア・キリスト教・多元性」研究会の研究活動報告論文集として刊行され、本研究会の前身となる旧「アジア・日本のキリスト教と宗教的多元性」研究会の研究ジャーナルから数えて通算して第19号を迎えました。今回は、今年の2月頃より世界的に広範に拡大した新型コロナウイルス感染への対応などの理由で、第18号への投稿が間に合わなかった研究会メンバーのために、第19号を第1集と第2集の二つに分け、第1集を例年より半年早めに刊行することになりました。執筆の方々はもちろん、研究会での議論に参加いただいたメンバーの方々、特に、編集担当者に全面的な協力をいただくことによって、無事に刊行することができました。この場をお借りして、心よりお礼を申し上げます。なお、第2集は例年通り、年度末に刊行の予定です。

本研究論文集は創刊号より、電子ジャーナルをめざして刊行されてきましたが、第13号までは、必要部数に限り、冊子体での刊行も行ってきました。しかし、第14号からは、冊子体なしの完全な電子ジャーナルとして、研究会ホームページと京都大学学術情報リポジトリにおける公開ということになりました。電子ジャーナルという刊行形態であるため、今回のような変則的な刊行も、比較的容易に行うことができました。

◆2020年度の研究会の活動の詳細については、第2集の「研究会の活動内容（2020年度）」また研究会ホームページに記載されることとなりますが、先に説明しました新型コロナウイルス感染拡大への対応として、多くの学会や研究会と同様に、本研究会でも、4月から7月までは、毎月1回の研究会を中止し、8月からは、オンライン（Zoom）で研究会を開催しています。今後、研究会の実施形態については見通しが立たない状況が続くものと思われそうですが、オンラインなどの形態で柔軟に研究会を実施したいと考えています。ご協力をよろしく願いいたします。オンラインでの研究会の実施は、新型コロナウイルス感染拡大への対応という理由からでしたが、オンライン研究会には海外在住の方をはじめ遠方の方々に参加いただくことができました。この点で、オンライン研究会は、今後の研究会の実施形態として積極的に位置づけることができるかもしれません。

◆2020年3月14日に本研究会の総会が開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染への対応として、一部をメール会議に移行し、2020年度の研究会役員の決定については延期しておりました。しかし、8月28日のオンライン研究会に合わせて、総会を開催し、2020年度の研究会役員は2019年度の役員が継続して務めることになりました。

◆研究会メンバーのこの4月以降の動向をお知らせします。山本美紀さんは青山学院大学教育人間学部に教授として、洪伊杓さんは山梨英和大学に准教授として、そして三野和恵さんは京都大学大学院教育学研究科に助教として、4月より着任されました。また、金香花さんは、9月より中国の黄山学院で日本語教師として働いています。ご活躍をお祈りいたします。

◆アルベルトゥス＝トーマス・モリさんが、2017年に立命館大学に提出し博士号を授与された博士論文をもとに、『華人キリスト者の越境と宗教実践——中華性とミッションの人類学的研究』（風響社、2020年）を刊行されました。この研究会で発表いただいた研究が思い起こされます。

◆今後とも、本研究会のために、各方面からのご協力を賜りますよう、よろしく、お願い申し上げます。

2020年10月

研究会・研究活動担当

芦名 定道